

カシマサッカースタジアムと桜



(表紙写真提供：鹿嶋市)

1993年4月、日本で初めて本格的なサッカー専用スタジアムとして、茨城県鹿嶋市内に誕生した「茨城県立カシマサッカースタジアム」。

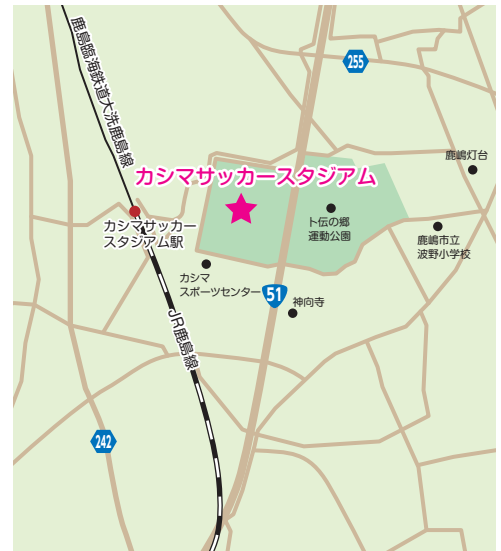
約4万人の観客席を有するスタジアムでは、スタンドのどこからでも観戦しやすい工夫が施されており、オープン以来、Jリーグ「鹿島アントラーズ」のホームスタジアムとして、また、「サッカーの聖地」として、多くの市民やサポーターに親しまれており、東京2020オリンピック・パラリンピックではサッカー競技会場の1つに決定しています。

2002年には、21世紀初、そして、アジア初となる日本と韓国の共同開催となった「FIFAワールドカップ」において、試合会場の1つに選ばれました。

その翌年の2003年、鹿嶋市は、サッカー・ワールドカップを成功させるために培った市民活動をさらに進展させ、「サッカー・W杯開催記念桜の故郷づくり事業」を立ち上げました。

同事業の取り組みの1つ、「千本桜植栽事業(サッカー・W杯開催記念樹)」では、スタジアムの周辺や同地出身の剣豪と称された塚原ト伝の名から取った「ト伝の郷運動公園」の敷地内に約1,000本の桜が植樹され、毎年、3月下旬から4月上旬にかけて、まちを鮮やかに染め上げています。

新型コロナウイルス感染症終息後、ご家族・ご友人とともに、2002年の熱戦に思いを馳せながら、スタジアムとその周辺でお花見を楽しんでみてはいかがでしょうか。



◆場所：茨城県鹿嶋市神向寺後山26-2

◆アクセス：

【車】東関東自動車道「潮来IC」から約15分

【電車】JR鹿島線・鹿島臨海鉄道「鹿島神宮駅」からタクシーで約10分

JR鹿島線・鹿島臨海鉄道「カシマサッカースタジアム駅」から徒歩2分（※試合日のみ停車）